

地域社会と防災

公益社団法人 全国防災協会
会長 脇 雅史



日本防火・防災協会の皆様におかれましては、地域防災に関して、その充実に向け大変精力的な活動を展開されており、心から敬意を表し、また感謝を申し上げます。

私は、昭和42年に建設省に入省し、河川技術者として地域防災に係ってまいりました。建設省には30年勤務しましたが、この間、4つの河川工事事務所に10年間、5つの地方建設局に9年在任しました。これらの現場でいつも気になっていたことは、水防に関する業務でありました。現場の責任者の時代は、今と違って、詳細な天気予報や水位、水文情報がはるかに入手し難い時代であったため、雨の音にも極めて敏感になっていました。

情報の、収集・伝達共当時とは比べものにならない位、発達しましたが、一方ではそれを受けて活動する消防団、水防団の人の確保が益々困難になり、それに的確に対応してゆくためには、多くの努力が必要となっています。災害はいきなりやってくるということで、日頃からの備えが大事なことは言うまでもありませんが、とりわけ、火災については対応の迅速さが求められるわけで、一段と困難なことが多いと察します。

このように、只でさえ難しい仕事であるにも拘わらず、地域の在り様そのものが大きく変化してしまったことが、事態をより困難なものにしていると思います。その土地に生まれ、その土地で育ち、その土地で暮らしてゆく人がどんどん減っています。地域創成、地域再生等と大仰に言わなくても、日本の将来にとって、全国のそれぞれの地域がより豊かに発展してゆくことが何より大事と考えます。

防災だけを取り出して、それだけをうまくやってゆくことなどあり得ません。まずその地域に暮らす人々が、その地域の将来をどう考えてゆくのか、みんなで議論を積み重ね、多くの人々、若い人からお年寄りまで、女も男も共通の意志を持てるような努力が必要です。私の世代の多くの人間は、学校を出てサラリーマンという職業を選び、仕事の都合で全国を回り歩くといった状態に置かれることが普通でした。仕事のために尽くすということも大事ですが、地域のために尽くすという精神が少し足りなかったように感じています。

自分一人の将来に対しても、なかなかはっきりとした方向は見つけ難いものですが、それが地域となるとなると一層困難なことが数多くあると思います。しかし地域としての意志を持たなければ、地域の発展はあり得ません。そういう困難を乗り越えることが出来た地域こそが発展してゆくのです。そして地域の発展には、防災、水防、防火という安全の確保は何にも増して重要なことです。

こうした文章を書いているうちにも、またまた各地で大きな水害が発生しています。北海道や岩手県の皆様には、心からお見舞い申し上げますが、近年雨の降り方は激甚なものに変化しており、全国どこにでも災害は起こりうるものとなっていますので、皆様と共に更に一層の対策を練っていかねばならないと思います。

今後の皆様方の益々のご努力をお願いいたします。